

目的：四世代家族における生活の共同性と分離の状況を、事例調査により居住形態と生活設備・施設、家計、家事労働の側面から検討するとともに、家族員が現在の暮らしに対してどのような満足感や生活分離希望をもっているかを明らかにした。

方法：昭和62年7月と63年7月に、静岡県志太郡岡部町朝比奈地域の四世代家族に対して、訪問面接による事例調査を実施した。本研究の分析対象者は、11事例のG₁祖父2人、G₁祖母8人、G₂父9人、G₂母11人、G₃夫10人、G₃妻11人の計51人である。

結果：①生活の共同性と分離の状況は、【居住形態はG₁とG₃・G₄が母屋、G₂が別棟のAタイプ、家計不分離、食事共同】【居住形態はG₁・G₂が母屋、G₃・G₄が別棟のBタイプ、家計不分離、食事共同】【居住形態Bタイプ、家計分離、食事共同】【居住形態Bタイプ、家計分離、朝食のみ分離】【近居】の5つのタイプに分けられる。②現在の暮らしにG₁とG₂全員が「非常に満足」し、G₃夫の満足感も高い。しかし、半数のG₃妻は「少し不満」「多いに不満」と感じ、世代間での生活分離拡大を希望している。③G₃妻が現状に満足している事例には、専業農家で、G₃妻が農業者、「サイフのヒモ」所有者、家事担当者として重要な役割を果たしているケース、世代間に生じた収入、勤労観、生活様式、生活時間のずれに合わせた生活分離が行われ、しかもG₃妻が四世代同居をプラスと考えているケースがある。④専業農家であるがG₃妻は専業主婦、「サイフのヒモ」をG₂母が所有する兼業農家、G₃妻がG₁祖父母や身体障害者の介護を担当、G₃妻が食生活や価値観のずれを大きく感じている場合、G₃妻の満足感は低く、生活分離を希望する。